

今年度の公開学習会は、岡山大学名誉教授の佐藤暁先生をお迎えし、「発達特性のある子どもの困り感に寄り添う指導・支援～二次障害が疑われる子に対する指導・支援～」の演題のもと、ご講演いただきました。今回の支援教育部だよりでは、その講話の一部をご紹介します。

他者に対する不適切な関わり方をする子どもへの対応

パニックになったときは、仕切りのあるスペースで落ち着くまで見守ったり、15分程度の散歩を取り入れたりして気分転換できるようにします。落ち着いた後は今までしていた活動に戻ることができるように、本人の活動の流れを戻すことも大切です。

いきなり泣いたり怒ったりするときは、フラッシュバックが起きている可能性があります。何もされていないのに、相手の顔を見ると思い出しパニックになることもあります。原因が分からない場合は「フラッシュバックが起きているのかも」と考え、落ち着いて対応をしましょう。

他者に対し不適切な関わり方をする子どもへ向き合う上で大切にしたいこと

特定の人との関係を通じて形成される心理的な絆＝愛着形成を築くことが大切です。特に、子ども達と一緒に物を介して関わって遊んだり経験したりする中で、行動を具体的にほめたり共感したりして感情を共有しましょう。

就学前

学齢期



身体接触を通して築く。

- ・だっこやおんぶ
- ・手遊び



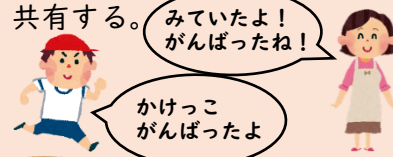
物を介して関わることで築く。

- ・遊具やおもちゃ、絵本など
- ・子どもが好きな遊びに大人も一緒に取り組む



感情を共有することで築く。

- ・離れたところでしている活動や風景を一緒に見て、感情を共有する。



自分の気持ちをコントロールすることに課題のある子どもへの対応

人の行動を根底で突き動かしているのは喜び・悲しみ・怒り・恐れなどの激しい心の動きであり、言葉やルールを理解だけで行動を制御するのは困難だと考えられます。我慢を強いるなどの抑えつける関わり方には限界があります。無理に抑圧するアプローチではなく、そうしなくても済む状態を作ることが大切です。不適切な行動をしなくても心が満たされる・静まる状態を作る支援として、次のことに取り組んでみましょう。

・生理的・身体的発散（しっかりと汗をかく運動）
生理的な欲求や高ぶった感情を軽減・発散させる効果があります。

・活動そのものに没頭・楽しむ体験
ご褒美や目的のためではなく、運動や遊び、学習そのものを「楽しい」と感じて没頭する体験を重ねましょう。

教材・教具の紹介

【算数】 <色分け課題>



色に合わせてイラストを分けて貼る。
よく見て分類する力をつけることができる。

【自立活動】 <プットイン>



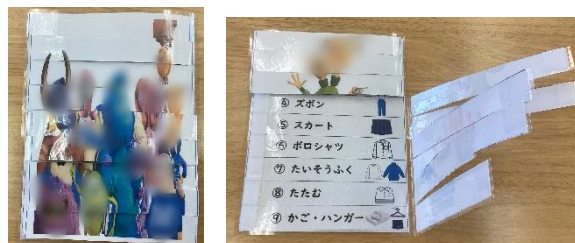
棒にスノーブロックの穴を通す。手指の巧緻性を高めることができる。また、くるくると落ちていく様子を目で追って追視する力を高めることもできる。

【国語】 <平仮名とイラストマッチング>



平仮名の集まりが単語として認識できるようになることを目的とする。単語とイラストが一致できるように、イラストを全て選んだ後にもう一度読み、確認する。

【日常生活の指導】 <着替え手順カード>



一工程終わるごとにカードを折りたたんでいく。全ての工程を終えると、好きなキャラクターの絵が完成する。キャラクターの絵を完成させようと意欲的に取り組むことができる。

《いろいろ紹介コーナー》

令和7年4月より本校にも専任特別支援教育コーディネーターが配置されています。今号では、専任特別支援教育コーディネーターがどのような活動をしているかをご紹介します。

お答えいただくのは、田中豊先生です。

Q. 専任特別支援教育コーディネーターの仕事を教えてください。

A. 専任特別支援教育コーディネーターは、主に近隣の学校園に在籍する発達に課題のある児童生徒の指導や支援について、先生方から相談に乗ったり、依頼があれば出向いて教員や保護者対象の研修会の講師を務めたりしています。普段は小・中・高等部の授業にも、参加させてもらっています。校内の子どもたちや保護者のみなさまのお悩みや相談にも乗りますので、気軽にお声がけください。

Q. 専任特別支援教育コーディネーター以外に、どんな活動をしていますか？

A. 本校勤務時間外には、県の「巡回専門指導員」として、県立高校に月1回訪問しています。現在、高等学校にも個別のサポートが必要な生徒たちが学んでおり、高校の先生方も充実した学校生活が送れるよう、希望する進路の夢がかなうよう、コミュニケーションのあり方や学習方法等について真剣に思案しています。私もそのお手伝いをさせてもらっています。高等学校にも特別支援教育の視点や考え方が広がってきていることを実感しています。どの場所で学んでも、子どもたちが夢をもち、それぞれの個性が大切にされる世の中を、みんなで創っていききたいですね。